

5月10日(日曜日)「エリヤ(2)尽きない粉」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記 17・8－24

「すると……主のことばがあった。『さあ、シドンのツアレファテに行き、そこに住め。見よ。わたしは、そのひとりのやもめに命じて、あなたを養うようにしている。』」(8,9節)

最も偉大な預言者と言われるほどのエリヤが、川のほとりに身を隠して鳥に養われたり、一人の貧しいやもめに助けてもらったりしています。そして、そのような中で奇跡的なわざをもたらしているのですから、不思議でなりません。

一握りの粉と、ほんの少しの油しかなく、それを最後の食事にして死のうと考えていたやもめと息子に出会い、まず自分にパン菓子を作って食べさせるように求めました。その時、彼はやもめに主のことばとして、「主が雨を降らせるまではその粉は尽きず、油もなくなるらない」(14節参照)と語り、そのとおりになりました。加えて、病気で死んだ息子も生き返らせたのです。

神を信じるとは、時が良くても悪くても神に信頼しきって従うことであることを教えられます。

～祈り～

主よ。いつまでも、どんな時でも、あなたのみことばとあなたご自身に信頼し、従う者であらせてください。また、人に助けってもらうこともできる者とならせてください。

【学びのために】

祝福されるということは、いつも物的に満たされ続け、名誉や身分が最高に導かれることとは限りません。貧しくされたり、他の人に助けってもらう過程の中で、人々に祝福をもたらすということもあることを覚えておかなければなりません。